

平成12年7月14日

気 象 庁

三宅島の火山活動について

三宅島の火山活動について、本日（14日）の火山噴火予知連絡会（伊豆部会）での検討結果は次のとおりです。

三宅島では8日の噴火以降、引き続き収縮傾向の地殻変動が続いています。しかし、1日1～2回、山頂直下で地震活動が活発化した後、傾斜変化が反対方向に一時的に変化し、その後地震活動が低下するという現象が見られてきました。

本日0時ごろから地震が増加した後、02時12分頃に、傾斜変化が反対方向に一時的に変化する同様の現象が観測されました。その後、03時55分頃から微動振幅が増大し、04時14分頃、山頂から約1000mの噴煙が確認されました。06時08分頃には1500mの高さとなり、その後も噴煙は継続的に噴出しました。火山灰は主として風下方向の北東部に降り、硫黄臭も認められました。8日の噴出物に比べ、細粒物質が多いものの、現在のところマグマ物質は確認されていません。

このことから今回の噴火は、8日の陥没口の地下で崩落が起こり多量の火山灰を噴出したものと考えられます。

現在も山頂直下の地震活動及び地殻変動が続いていることから、今後も同様の噴火現象が発生する可能性があります。

当面、山頂付近では引き続き注意が必要ですが、山麓での噴火の可能性はありません。しかし、風下の山麓には火山灰が降ることがあります。

三宅島の火山活動について

三宅島の火山活動に関する火山噴火予知連絡会（伊豆部会）の検討結果は次のとおりです。

三宅島では15時50分頃から16時50分頃にかけて、山頂火口で噴火があり、噴煙が1500m上がりました。また、火口周辺に噴石が放出され、風下の北東方向に降灰がありました。現在のところ、噴出物中にはマグマ物質は認められていません。

18時頃から再び噴火し、火山灰や噴石を放出しています。

今朝未明の噴火以降、地震は少ない状態が続き、地殻変動は収縮傾向にありました。噴火前に地震活動の活発化はなく、傾斜変化が一時的に反転する現象も見られませんでした。

夕方の噴火は山頂火口地下で水蒸気爆発が起き、火山灰や噴石を放出したものと考えられます。

今後も、山頂火口では噴火が発生する可能性があり、山頂付近では噴石等に引き続き注意が必要ですが、山麓での噴火の可能性はありません。しかし、風下の山麓には火山灰が降ることがあります。